

第43回滋賀校総文祭

努力を存分に発揮



県総文新聞

発行 編集

滋賀県高等学校文化連盟

新聞部門 加盟校

第43回滋賀県高等学校総合文化祭（以下県総文）の総合開会式が10月23日に栗東芸術文化会館さきらで開催された。今年の県総文のテーマは『近江に舞う創造の光 湖に響け文化の音色』だ。各部活動が日々の努力の成果を発揮する。

総合開会式は郷土芸能部門のMIHO美学院中等教育学校太鼓部による『屋台ばやし』の演共により力強く始まった。開会式では放送部門の守山高校放送部が司会を務めた。オープニング後、18部門の代表者がプラカードを持って入場した。そして小林歩実さん（八日市高校2年）による生徒代表挨拶や滋賀県高等学校文化連盟の高橋義昭会長、滋賀県教育委員会の福永忠克教育長の挨拶が行われた。加えて県総文のテーマ募集とポスター原画の結果が表彰された。

続いて行われたステージ発表では日本音楽部門の伊吹高校箏曲部、弁論部門の膳所高校など、当日参加する方が気

持ちよく過ごせるように、進行がスムーズに進むように仲間とともに頑張りたい」と意気込んだ。



▲整列する各部門の代表者



▶守山高校吹奏楽部による演奏



▶生徒代表挨拶を行った小林さん

総合開会式へ向けて

守山高校
吹奏楽部

総合開会式で『情熱大陸』を演奏する守山高校吹奏楽部部長の屋成和奏さん（2年）。『情熱大陸』の見所について「演奏中の振り付けを全員で合わせられるように練習を重ねた。またソロや明るく楽しい守高サウンドに注目して欲しい」と述べた。加えて総合開会式への意気込みについて「私たちが掲げるスローガン『響心動魄』を胸に、心から感動してもらえる演奏ができるよう頑張りたい」と決意を示した。

膳所高校
かるた班

総合開会式で実際に競技かるたを行う膳所高校かるたは実演について「札に向かう選手たちの迫力を感じてほしい。競技かるたの魅力が伝わればうれしい」と微笑んだ。見所について「『量の上の格闘技』とも呼ばれる競技かるたのスピード感に注目してほしい」と話した。当日への意気込みとして「たくさんの人に量の前で足を止めて注目してもらいたい」と熱意を表した。



▶迫力のある実演

総合開会式
参加校一覧

石山／伊吹／近江兄弟社／大津／大津商業／河瀬／草津東／甲西／光泉カトリック／幸福の科学／信楽／膳所／瀬田工業／玉川／八幡／比叡山／彦根東／日野／米原／MIHO美学院／水口／水口東／守山／八日市／栗東／立命館守山